

その名大口

感動をありがとう 9/1

さて、始業式にあたり何を話そうかということですが、やっぱりオリンピックですね。観ましたか？ 私は3時には起きて LIVE でテレビ観戦でした。日本は、史上最大のメダル数（金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個）でした。日本人の活躍を本当に嬉しく思いましたし、感動と勇気・元気をもらいました。それはオリンピックに参加するすべてのアスリートが、人生をかける思いをもってこの舞台に立つためにしっかり準備してくるからです。

今回のオリンピックに関してはさまざまな報道がなされており、私の話もその域を出る話ではありません。

二学期のスタートに際し、期限付教諭として下町太騎先生が、非常勤講師として大西治男先生が赴任されました。養護教諭の後野里美先生は育児休暇からの復帰です。左から、下町太騎先生・後野里美先生・大西治男先生。新任式と始業式の様子。

夢中に応援し感動した一つは、卓球でした。男子団体の銀メダルそして女子団体の銅メダルは感動でした。福原愛ちゃんのチームリーダーとしての思いが伝わり、銅メダルをかけての試合は力が入りました。愛ちゃんは努力と気配りの人だと思いました。

柔道もすごく応援していました。ロンドンオリンピックでの惨敗からの日本柔道界の再起を期してのオリンピックでした。各階級の選手それぞれが、強い思いをもって厳しい練習をしてきました。全員が金メダルを目指していたのです。斉藤仁全日本柔道連盟強化委員長の病死もありました。勝負の世界は常に厳しく、「鍛錬千日之行 勝負一瞬之行」です。私が凄く思い感動したのは、金メダルを目指して戦ってきたのに敗れ、30分後には気持ちを切り替えて、銅メダルを勝ち取ったということです。4年間金メダルだけを目指して練習してきた選手が、15分ぐらいは茫然自失の時を過ごしたのでしょうか。その後、戦いモードに気持ちを切り替え見事に勝利する。選手の精神力に、感動しました。

レスリングでは、最後まで諦めない姿勢に感動しました。登坂絵莉選手にしても4大会金メダルの伊調馨選手にしても、残り僅かからの逆転の金メダルでした。猛練習に裏付けられた「絶対に諦めない」という姿勢でした。戦いの後半、外国人選手が肩で息をしているのに対し日本選手はタイムがストップした後もすぐに攻撃姿勢をとっていました。後半にチャンスがあるというのは、猛練習に裏付けられたものであり、少しのチャンスをも見逃さず逆転できたのです。

男子体操団体の金メダルも感動的でしたね。内村選手は、ロンドン大会に続いて総合でも金メダルを取りました。団体で金メダルを獲った理由を訊かれて、「すごく努力をしてきた」と言いました。これはすべてのアスリートに共通することです。「準備なくして勝利なし」です。「努力した人が必ずしも勝つとは限らないが、勝った人は必ず努力している」ということです。

カヌーやバドミントン競技で、日本人初のメダルを獲得しました。カヌーで銅メダルを獲得した羽根田卓也選手は、高校卒業後強くなりた一心でカヌーの強豪国スロバキアに渡って武者修行を10年続けていたのです。バドミントンダブルスで金メダルを獲得した高松ペア（高橋礼華選手と松友美佐紀選



手)は、16-19と負けていた決勝戦で、連続5ポイントを獲得した試合も鳥肌が立ちました。高松ペアは高校時代の先輩後輩ですが、彼女らはオリンピック金メダルを目標にし公言して練習していたのです。高い目標を持つことの大切さを教えてくれます。

陸上の400Mリレーの銀メダルも凄いことでした。彼らは東京での金メダルを本気で狙っています。陸上でアメリカ・ジャマイカを押さえて、日本が世界一になることも夢ではなくなりました。

もう一つ凄く感動したのは、「24時間テレビ」です。病気や障害に負けずに、明るく力強く生きている。人生のどこかのタイミングで障害者になった人は、過去の自分とのギャップに苦しむそうです。その後、徐々にできないことよりもできることに目を向け、能力を高めていく。テレビ前で感動しながら、“もっと感謝して生きなければ。そしてもっと頑張らないと”と決意を新たにさせてくれました。その時思いついたのが「あたりまえ」という詩です。私が20代の時出会った詩です。作者は30歳で骨肉腫になり、右足を切断しましたが腫瘍は両肺に転移し、32歳の若さでなくなります。彼の手記『飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ』がベストセラーになり、映画にもなりました。

〈あたりまえ〉

こんなすばらしいことを、みんなはなぜ
よろこばないのでしょうか
あたりまえであることを
お父さんがいる
お母さんがいる
手が二本あって、足が二本ある
行きたいところへ自分で歩いて行ける
手をのばせばなんでも取れる
声が聞こえて声が出る
こんなしあわせはあるのでしょうか
しかし、だれもそれをよろこばない
あたりまえだ、と笑ってすます
食事が食べられる
夜になるとちゃんと眠れ、
そしてまた朝がくる
空気を胸いっぱいにする
笑える、泣ける、叫ぶこともできる
走りまわれる
みんなあたりまえのこと
こんなすばらしいことを
みんな決してよろこばない
そのありがたさを知っているのは
それを失くした人たちだけ
なぜでしょう
あたりまえ



第69回体育祭に向けての予行練習(9/8)の様子。生徒達も気合いが入り、応援団は夏休みから練習が続いています。二年生の「集団行動」は早朝の自主練習が始まっています。趣向を凝らしたパネルは、当日のお楽しみです。保護者、地域の方々のたくさんのご来場をお願いします。